

グレード別登用基準

	登用基準	求める技術レベル
5	<ul style="list-style-type: none">外部環境の変化や経営課題を踏まえたうえで、プロダクトに関する戦略を立案できる。立案した戦略を実行して目標を達成するために、経営資源を戦略的にマネジメントできる。高い専門性が社内外で広く認知されており、知見を求められる存在となっている。	<ul style="list-style-type: none">特定分野に関して最先端の技術や知識を有している。豊富な開発経験から、社内の様々な設計や改善に対して的確な助言や指導ができる。
4	<ul style="list-style-type: none">特定分野において高い専門性を持ち、安定して非常に高い成果を出すことができる。高い専門性が社内で広く認知されており、知見を求められる存在となっている。仕事に対する姿勢や業務の進め方が周囲の模範となっている。 (・複数の開発チームをマネジメントすることができる。)	<ul style="list-style-type: none">他のエンジニアの模範となるようなコードを書くことができる。コードレビューや体系的なデバッグに関する基準を定めたり、難易度の高いコーディングやリリースに関して指導ができる。開発言語やフレームワーク、ライブラリ、デザインパターン、社内の基盤ドメインなどに精通している。実際の運用を見据えた設計ができ、複数の開発や改善をリードしている。 (組織を管掌している場合、実務としてコーディング比率が下がり、指導の比率が上がる)
3	<ul style="list-style-type: none">専門性を持ち、安定して高い成果を出すことができる。仕事に対する姿勢や業務の進め方が周囲の模範となっている。 (・開発チームをリードすることができる。)	<ul style="list-style-type: none">コードに対する深い知識を持ち、チームやPJのコードレビューに責任をもっている。影響範囲の大きいバグや技術的課題を解決したり、難易度が高いコーディングを行なうことができる。自分のプラットフォームの開発言語、フレームワーク、ライブラリ、ドメインに関して十分な知識がある。コストを抑えた設計をすることができる。 (組織を管掌している場合、実務としてコーディング比率が下がり、指導の比率が上がる)
2	<ul style="list-style-type: none">安定的かつ自律的に、期待された成果を出すことができる。率先して自組織の成果の最大化に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none">安定的かつ自律的に、小さい機能の開発を行ない、バグや技術的課題を解決している。率先してコードレビューを行ない、最小限のアドバイスでリリースプロセスを理解・実行している。自分のプラットフォームの開発言語、フレームワーク、ライブラリ、ドメインに関する知識を持っている。
1	<ul style="list-style-type: none">上長や周囲のサポートを受けつつ、期待された成果を出すことができる。自身の成長に対して意欲的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none">上長や周囲のサポートを受けつつ、チームのコーディングガイドラインや基準に従い、インターフェースの互換性や拡張性を考慮したうえで、小さい機能の開発を行なっている。テスト容易性、可読性、エッジケース、エラーを意識しながらコードを書いている。自分のプラットフォームの開発言語、フレームワーク、ライブラリ、ドメインに関する基礎知識を持っている。